

# 富士山！万歳！！

8月6日（月）～8月9日（木）

IN 静岡県立富士山麓山の村～赤岩八号館

	午前	午後	夜
1日目	施設に向け出発	施設に到着	作戦会議
2日目	荷造り・出発	富士登山	山荘到着・ハガキ書き
3日目	山頂出発・下山開始	施設到着・片付け	振り返り
4日目	施設清掃・プール	関西に向け出発・解散	

一日目：今年も大きな挑戦が始まりました。富士山に挑むのは18名のメンバーと5名のリーダー、合わせて23名です。京都駅にて全員揃い、富士宮市へ向かいました。初めの車内では知り合い同士で会話をしたり、リーダーを介して話が盛り上がりつつありましたが、徐々に友達の垣根を越え、会話が生まれていきました。途中のSAにて名札作り、自己紹介を経て昼食を済ませました。席替えや自己紹介を経て、施設に到着時にはある程度仲間意識も芽生えていたように感じます。決め事に対しては遠慮したり、指示待ちだったりされる方がおられました。夕食は学校の給食と同じで自分達で配膳します。リーダーシップを発揮される方が声を出して指示を出し、率先して配膳をされていました。夕食後は富士山へ持っていく備品の仕分けです。個人装備以外にみんなの持ち物を自主性で分けました。調整は明日の出発前に行います。これまでに富士山に登った方から話を聞き、イメージを膨らませた。明日は大きな挑戦の一日です。今日は早く寝て、備えましょう。

二日目：朝から晴れたり、曇ったり、雨が降ったりと変化の多い天候でした。朝食を済ませ、荷造りの為にみんなで必要な装備品や快適グッズ、対策などを確認しました。その後に詰め込み作業を行いました。なかなか荷物が入らず、様々な入れ方に正解を見つけるパズルのようでした。荷物を背負い、富士山を目指しました。五合目まで車で向かえるのですが、上がっていくにつれ、雨や風が増していき、皆不安な気持ちになりましたが、士気は下がっておらず、誰もが「頑張る！」と仰っていました。昼食と体を慣らすために1時間30分ほど五合目に滞在し、出発です。すると雨は止み、太陽が差してきました。その勢いに便乗して、皆も意気揚々と出発しました。今回のルートもお馴染みの「プリンスルート」です。このルートにはいくつか難関が待っています。その一つが『宝永山』です。標高はそこまで高くないのですが、この山は砂利と火山灰で出来ているため足場が悪く上手く登れません。列の前の人が歩いたところを踏み歩く工夫をしながら、一気に駆け登りました。宝永山を越えると、次は『御殿場ルート』です。御殿場は他のルートに比べて直進ではなく、ひたすら“じゃばら”で登っていくため、なかなか目的地に辿り着けません。土壌は砂利と火山灰なので、こちらは一筋縄ではいきません。こういった難関を乗り越え歩いていく為、もちろん体力、気力、精神力、あらゆる力が必要です。初めはあまり声が出ていませんでしたが、宝永山を登る頃から「頑張れー！！」、「ファイトー！！」、「もう少し！！」と沢山の声援や友達の名前を出して応援されていました。御殿場を歩き続けるとついに今回の目的地【赤岩八合館】が見えてきました。一同テンションも上がり、更に気合を入れ進みました。そしてついに八合目に到着しました。夕食のカレーを何度もおかわりし、本当に美味しく召し上がっておられました。疲れていたメンバーもこの時は明るく、美味しくいただいておられました。夕食後は、ハガキを書き、明日の流れを確認し、早々に寝ました。



三日目： 夜中1時の段階で、風も程よく、雲も少ないため、1時30分より山頂を目指しました。行きたいと願う声が多数あったので、暗い中、静かに意気揚々と準備されていました。しかし、1時間程すると、天候が急変し始めました。風は強くなり、時より強い霧雨が降り、雲も出てきました。九合目あたりまで登っていたのですが、安全第一と皆の総意のもと、惜しみながら下山をしました。下山途中でご来光を見ることが出来、その時は立ち止まり感動を分かち合いました。山荘に残っていた組も山荘から見る事が出来、感動されていました。山荘で朝食を済ませ、少し休憩をしてから下りました。休憩中も風は強さを増していき、皆不安な気持ちが強かったですが、これからも強くなるとの事なので、皆で決心し出発しました。横なぐりの雨と風に吹き飛ばされそうになりながらも、5~6人で手をつなぎ、飛ばされないように支え合いながら下っていきました。標高が下がると風も弱まる筈ですが、そんな事はなく、吹き下ろしの強烈な風が我々を容赦なく襲いました。しかし、それでも負けずに仲間を信じて進みました。そして、誰一人怪我や体調不良なく、出発地の五合目に帰ってくることができました。さすがのみんなも疲れが一気に出たのでしょう、帰りの道中ではぐっすりと休まれています。施設に帰ってくると、荷物の片付けです。濡れた衣類や靴、リュックを洗い干したり、備品を回収したりしました。片付けの後は、ご褒美として麓のスーパーに行き、自身が今食べたいものを一品購入し、美味しそうに食べておられました。夕食と入浴も済ませると、振り返りを行いました。これまで撮影してきた写真を見ながら、気持ちを振り返っていただきました。そして、一人一人富士山に対する感想や学んだこと、もう一度登りたいかを話していただきました。



四日目： 昨夜はぐっすり休まれたのでしょう、朝早くから元気に動いている姿を伺うことが出来ました。朝食前に荷物の片付けを終えました。食後はお世話になった生活棟の清掃と荷物運びです。こちらも皆で分担し、手際よく終わらせる事が出来ました。施設を出発し、毎年恒例、ご褒美のプールです。昨日まで過酷な環境下にいたので、プールの開放感に気分は最高のように、ひたすら楽しみ続けました。昼食は最寄りのSAにていただきました。昼食後は、お土産を購入しました。迎えを待っている方へ、お友達へ、頑張った自分へ考え、想いながら購入されていました。そして、関西へ帰りました。車内はみんな休まれるのかと思いましたが、DVDを楽しんだり、友達との会話を楽しんだりされていました。京都に到着し、下車する友達との別れを惜しまれていました。「また会おうね。」と握手し約束を交わしておられました。今回は山頂に登る事は出来ませんでしたが、それぞれ得たものは大きいものだと思います。また、来年も登りますので、是非とも一緒に登りましょう！！本当にお疲れ様でした。



### <キャンプ総括>

富士山はいつも様々な顔を見せてくれます。穏やかなニコニコした顔、少し険しい感じの顔、苦しく哀しい顔、そして今回はこれまでに経験したことのない、非常に厳しい顔でした。我々の行く手を阻み、自然の猛威を与えました。しかし、私達はそれに負けずに立ち向かいました。みんなで手を握りながら下山をしたのですが、強く握りしめる力に沢山の想いを感じました。普段なら大人でも泣きそうになる脅威に、恐怖を抱きながらも頑張ろうとされる強さを何度も伺うことが出来ました。圧倒的自然に大人も子どもも平等です。メンバーと支え合っていくことの大切さ、必要性を改めて感じる事が出来ました。登頂は出来ませんでしたが、今回も多くのことを学ばせていただきました。来年こそは頂上でご来光を、そして富士山、メンバー共に最高の笑顔を見られる事を切に願います。  
(竹中 哲郎)